

## ENDSVILLE400

0001: なが ぎ かんぜん はい なが ぎ かんぜん はい  
流し斬りが完全に入れば、デバフの効果が付与される。

0002: たしゃ みくだ おど  
ゲグァンはこのところ他者を見下すし、ちょっと脅かすか？

0003: さけ この  
グエルツォーニは、酒ならウォッカとスプリッツァを好みますな。

0004: は ひ  
ミェチスワフは、ツギハギに貼られたガムテープを、バリバリと引っぺがす。

0005: じんせいやま たに の  
人生山あり谷ありだが、キャビアをつまみブルゴーニュワインを飲めるのは、  
こうふく  
幸福だろう。

0006: たく いんぺい  
テヨリルは、巧みにトラップを隠蔽したつもりだが、モロバレだぜ。

0007: きつぷ きしゃ の  
ネスビョーの切符では、ヴィーツェプスクの汽車に乗れません。

0008: すきまかせ みみざわ や  
ヒューヒューと隙間風が耳障りなボロ家を、リフォームせねば。

0009: しよくざい  
コシェヴォイのウィッシュュリストは、ネバネバ食材ばかりだ。

0010: きよく かんべき  
つまり、ドビュッシーの曲は、完璧なアートです。

0011: あま かか つら  
よおガキンちょ、甘っちょろいポリシー掲げてちゃ、辛いだろお？

0012: はんにや めん きやくま いろど らいきやくしゃ  
ピエルヴォマイスキーは、般若の面で客間を彩り、来客者をビビらせる。

0013: きびよう はや ぼくめつ  
デュルビュイで奇病が流行り、アスファンデアルが撲滅した。

0014: あてな ただ が だい ねが  
宛名はクァジモド、但し書きはカトリエーティ代でお願いします。

0015: がえ げんざい みぎかた あ  
ドヌーヴはピッチャー返しでケガをし、現在も右肩が上がらない。

0016: ぼ と あくへき  
べた褒めをネガティブに取るのは、ウォジミエシュの悪癖だね。

0017: へきち もど ひさ あ  
ティモシイが僻地から戻り、久しぶりにカルパッチョと会えた。

0018: ひら い こけつ い こじ え  
平たくなれば、虎穴に入らずんば虎子を得ずってやつだ。

0019: かざみどり や ゆ すべ ぎたい  
風見鶏と揶揄されるシェンキェヴィチだが、全て擬態である。

- 0020: フォージャが屁理屈を主<sup>へりくつ</sup>張<sup>しゅちよう</sup>し、規則が改<sup>きそく</sup>まった。<sup>あらた</sup>
- 0021: アニューシャは美食家<sup>びしょくか</sup>で、自宅に直<sup>じたく</sup>属<sup>ちよくぞく</sup>のコックまで雇<sup>やと</sup>う。
- 0022: 健<sup>すこ</sup>やかなベビーの寝顔<sup>ねがお</sup>に、アデイエミの気持<sup>きも</sup>ちが安<sup>やす</sup>らぐ。
- 0023: ビューリヤは、あまりに雑務<sup>ざつむ</sup>が多い不<sup>おお</sup>満<sup>ふまん</sup>から、あっさりとギブアップし辞<sup>や</sup>めた。
- 0024: 氷<sup>ひようじん</sup>刃<sup>じん</sup>じゃなきや、ピラミッドの雑魚<sup>ざこ</sup>にすら斬<sup>ざんげき</sup>撃<sup>つう</sup>が通<sup>と</sup>じぬ。
- 0025: リューマチを病<sup>や</sup>むピヤストゥヴナは、助<sup>じょしゆ</sup>手<sup>しごと</sup>の仕事<sup>けっせき</sup>を欠<sup>きたく</sup>席<sup>せき</sup>し、帰<sup>か</sup>宅<sup>たく</sup>した。
- 0026: ファブリーツィは基<sup>もと</sup>肥<sup>ごえ</sup>を準<sup>じゅん</sup>備<sup>び</sup>し、パプリカの栽<sup>さい</sup>培<sup>ばい</sup>を始<sup>はじ</sup>めた。
- 0027: 桃<sup>とうげんきよう</sup>源<sup>げん</sup>郷<sup>きよう</sup>とユートピアは、似<sup>に</sup>て非<sup>ひ</sup>なるものである。
- 0028: 納<sup>の</sup>沙<sup>さ</sup>布<sup>ふ</sup>岬<sup>さき</sup>で、レビュウの結果<sup>けっか</sup>を受<sup>じゅりよう</sup>領<sup>りよう</sup>した。
- 0029: ビテュニアのビジネスホテルでムニャムニャと寝<sup>ね</sup>言<sup>ごと</sup>を言<sup>い</sup>ったが、中<sup>なか</sup>身<sup>み</sup>を覚<sup>おぼ</sup>えてない。
- 0030: ベニヤミーノは、デューク大<sup>だいがく</sup>学<sup>がく</sup>のカリキュラムを取<sup>と</sup>り寄<sup>よ</sup>せた。
- 0031: フェリーの左<sup>さげん</sup>舷<sup>げん</sup>には、見<sup>み</sup>事<sup>ごと</sup>に海<sup>うみ</sup>しか見<sup>み</sup>えないな。
- 0032: へべれけのハーツォグが、あたりをキョロキョロと見<sup>み</sup>渡<sup>わた</sup>す。
- 0033: ケチェグウは、古<sup>ふる</sup>い機<sup>き</sup>具<sup>ぐ</sup>を納<sup>な</sup>屋<sup>や</sup>に押<sup>お</sup>し込<sup>こ</sup>む。
- 0034: この消<sup>け</sup>しゴムが、雑<sup>ざ</sup>貨<sup>つか</sup>屋<sup>や</sup>、並<sup>なら</sup>びにウエブショッ<sup>しなぎ</sup>プでも品<sup>しな</sup>切<sup>ぎ</sup>れ？
- 0035: キェプラヴィークで、夜<sup>よ</sup>な夜<sup>よ</sup>な隻<sup>せきがん</sup>眼<sup>がん</sup>の武<sup>もの</sup>士<sup>のふ</sup>が、うろちょろするらしい。
- 0036: 暫<sup>ざんてい</sup>定<sup>てい</sup>として、アーティスト枠<sup>わく</sup>はクウドウンで。
- 0037: デバッグのポピュラーなやり方<sup>かた</sup>は、デバッガーを使<sup>つか</sup>うことだ。
- 0038: 迷<sup>めい</sup>彩<sup>さい</sup>柄<sup>がら</sup>のポンチョに身<sup>み</sup>を包<sup>つつ</sup>むのは、恥<sup>は</sup>ずかしがり屋<sup>や</sup>のツェルシェフです。
- 0039: 華<sup>きゃしゃ</sup>奢<sup>しゃ</sup>なアドログエの秘<sup>ひ</sup>技<sup>ぎ</sup>が、ベツツァーリを穿<sup>うが</sup>つ。
- 0040: ゼブラについて、胸<sup>きようきん</sup>襟<sup>きん</sup>を開<sup>ひら</sup>き語<sup>かた</sup>り合<sup>あ</sup>おうではないか。

0041: ひょっとすると、バニョーネならモッツアレラチーズやニョッキが<sup>か</sup>買えるかもしれません。

0042: リーチドラ<sup>ろく</sup>六、親<sup>おや</sup>跳ね<sup>つぱ</sup>でトビ。

0043: 雑音除去<sup>ざつおんじょきよ</sup>には、アクティブとパッシブのアプローチがある。

0044: だから、ツェペリとジェニーが、ドウビンギエイで<sup>ごはく</sup>五泊も<sup>しゅくはく</sup>宿泊するってさ。

0045: たとえ<sup>ふさく</sup>不作でも、年貢は米が<sup>ねんぐ</sup>百<sup>こめ</sup>俵<sup>ひゃつびょう</sup>だ。

0046: グエイエは、徹夜<sup>てつや</sup>の激務<sup>げきむ</sup>を乗り越え、グウーグウーと<sup>ばくすい</sup>爆睡だ。

0047: ドラゴンキラーでヒュドラの皮膚を<sup>ひふ</sup>貫<sup>つらぬ</sup>け。

0048: クアーチは怪しげなセミナーで、マキャヴェリズムにどっぷり<sup>そ</sup>染まった。

0049: ベゾツツイが、白<sup>びやく</sup>夜<sup>や</sup>の夜にプロポーズすると、覚悟<sup>かくご</sup>を決める<sup>き</sup>。

0050: バルヒェットは手術<sup>しゅじゅつ</sup>後に、グオーグオーとイビキを<sup>ね</sup>かいて寝る。

0051: 努力<sup>どりよく</sup>が成<sup>じょう</sup>就<sup>じゅ</sup>すると限らないが、だからサボる理由<sup>かりゆう</sup>になるわけじゃない。

0052: フラフラしてても、クェスブを決して<sup>けつ</sup>侮<sup>あなど</sup>るな。

0053: ポムピューレの画像<sup>がぞう</sup>はピニョッティの著作物<sup>ちよさくぶつ</sup>だが、フェアユース<sup>しょう</sup>で<sup>しょう</sup>使用できる。

0054: あいつの名前<sup>なまえ</sup>はチュクウディエベレだ。

0055: アマッテヤが、チュニジアでヴァカンスをエンジョイする。

0056: ギヤレットのスキャンダルは、ニュースバリューが<sup>ばつぐん</sup>抜群です。

0057: ムシェズィプの息子<sup>むすこ</sup>が、オギャーオギャーと<sup>もと</sup>ミルクを<sup>もと</sup>求める。

0058: リュブリャナは、語学<sup>ごがくりよく</sup>力さえあれば、誰<sup>だれ</sup>でもウェルカムな<sup>とし</sup>都市です。

0059: キェシェクが奇襲<sup>きしゅう</sup>を企<sup>くわだ</sup>てても、我が軍<sup>わぐん</sup>のレーダーが<sup>ほそく</sup>捕捉できる。

0060: 普段<sup>ふだん</sup>飄々<sup>ひょうひょう</sup>としたキャラが屈指<sup>くっし</sup>の強さを<sup>つよ</sup>誇るのは、フィクションの鉄板<sup>ほこ</sup>ネタ<sup>てっぱん</sup>でね。

0061: 僕はジビエに積極的だが、食中毒になり、救急車で運ばれた過去がトラウマだ。

0062: ファビュラスのニュアンスを、スティーヴの母語で伝えるのが難しい。

0063: スグウェニャに不時着できる確率は、フィフティーフィフティーだ。

0064: リヒエンツァは、自らに課した掟を厳しく遵守する。

0065: デュクリュエは、楽器ならチューバとオーボエがお気に入りだとか。

0066: 同じ失敗を懲りずに繰り返す、グイーディへのアドバイスは無駄だろ？

0067: ヴォディツェの岸辺で、穏やかな波をバックにピューピューと笛を鳴らす。

0068: フーデェの事業は、赤字と黒字がごちゃ混ぜだと秘書が嘆く。

0069: サルミャーエは、エグゼクティブやラグジュアリーなどのキーワードに目敏い。

0070: クォーリーはフィギュアスケートのホープで、トリプルアクセルが見せ場だ。

0071: 俺はアラルテョベに修行へ向かうが、ジョウエルは置いてゆく。

0072: 肺炎で息苦しいので、授業は休ませて頂きます。

0073: スイミョーンが、クォーティアーで勤行する。

0074: ペリェシャツのラジオ番組で、レギュラーに選出されました。

0075: ピニエーダは、チューハースフェルトからピュットラハへ引っ越した。

0076: アヨーダーは、合掌でも身のこなしがキビキビしてた。

0077: オノマトペでは、チューチューはネズミで、ピヨピヨはヒヨコです。

0078: クィエトウス作のピニャコラーダは、実に滋味に富む味わいだった。

0079: バビャコヴァーは、発病した捕虜を手厚く保護した。

0080: フュジットがセアカゴケグモに咬まれ、発熱し寝込む。

- 0081: チョコレートフォンデュは<sup>めづら</sup>珍<sup>きわ</sup>しいので、ひと<sup>きわ</sup>際<sup>おお</sup>大きな人<sup>ひと</sup>だかりができますよ？
- 0082: チャームクォークは、サミュエルらが突<sup>つ</sup>き止<sup>と</sup>めた素<sup>そ</sup>粒<sup>りゅうし</sup>子<sup>し</sup>である。
- 0083: ビヨグデョルは、ウィキペディアで引<sup>ひ</sup>っか<sup>た</sup>かる単<sup>たん</sup>語<sup>ご</sup>だが、よくわからぬ。
- 0084: 作<sup>さく</sup>物<sup>もつ</sup>への被害<sup>ひがい</sup>は、ゲリラ豪<sup>ごう</sup>雨<sup>う</sup>もだけど、梅<sup>つ</sup>雨<sup>ゆ</sup>時<sup>じ</sup>期<sup>き</sup>は、むしろ淫<sup>いん</sup>雨<sup>う</sup>に苦<sup>く</sup>慮<sup>りょ</sup>する。
- 0085: メッツォアングエがクゥーとすり寄<sup>よ</sup>り、プラムデヤが口<sup>くち</sup>を綻<sup>ほころ</sup>ばせた。
- 0086: アルファベットのキューやエックスは、特<sup>とく</sup>別<sup>べつ</sup>に扱<sup>あつか</sup>わ<sup>き</sup>れる気がする。
- 0087: 津<sup>しん</sup>液<sup>えき</sup>不<sup>ふ</sup>足<sup>そく</sup>で目<sup>め</sup>がぼやけてきた。
- 0088: ピョジュがネゴシエーターとなり、無<sup>む</sup>差<sup>さ</sup>別<sup>べつ</sup>テロのリーダ<sup>せつ</sup>ー<sup>とく</sup>へ説<sup>せつ</sup>得<sup>とく</sup>を試<sup>こころ</sup>みる。
- 0089: イェヌーフアのウォッシュャブルスーツは安<sup>やす</sup>物<sup>もの</sup>で、すぐ毛<sup>け</sup>羽<sup>ば</sup>立<sup>だ</sup>ちボロボロになるだろう。
- 0090: フュージョンがかかった小<sup>こ</sup>洒<sup>じ</sup>落<sup>ゃれ</sup>たカフェで、ビュッフェを<sup>たの</sup>楽しむ。
- 0091: ヒュバートの人<sup>ひと</sup>柄<sup>がら</sup>は、宿<sup>しゅく</sup>敵<sup>てき</sup>のジョゼフィーヌも認<sup>みと</sup>める。
- 0092: 安<sup>やす</sup>っぽい布<sup>ぬ</sup>の頭<sup>ときん</sup>巾<sup>ぎん</sup>だが、夜<sup>よ</sup>なべで手<sup>て</sup>作<sup>づく</sup>りした母<sup>はは</sup>の真<sup>ま</sup>心<sup>まごころ</sup>が有<sup>あり</sup>難<sup>がた</sup>い。
- 0093: テュペロは仮<sup>け</sup>病<sup>びょう</sup>で抜<sup>ぬ</sup>け出<sup>だ</sup>し、アツアツのスペツツァティーノを<sup>そ</sup>祖母<sup>ぼ</sup>に届<sup>とど</sup>けた。
- 0094: ツェティニエを<sup>おとず</sup>訪<sup>あつ</sup>れるなら、厚<sup>あつ</sup>手のコーデュロイジャケッ<sup>き</sup>トを着<sup>き</sup>るべきだ。
- 0095: ビェロヴツィナで略<sup>りやく</sup>奪<sup>だつ</sup>が起<sup>お</sup>きぬよう、キューザックは物<sup>ぶつ</sup>資<sup>し</sup>のストッ<sup>ちゅう</sup>クに注<sup>い</sup>意<sup>い</sup>する。
- 0096: 初<sup>しょ</sup>夏<sup>か</sup>のジロヴニツァで雪<sup>ゆき</sup>が降<sup>ふ</sup>るとは、由<sup>ゆ</sup>々<sup>ゆ</sup>しき事<sup>こと</sup>だ。
- 0097: ヴェネツィアーノが寝<sup>ね</sup>惚<sup>ぼ</sup>けて、うっか<sup>ひみつ</sup>り秘<sup>し</sup>密<sup>やべ</sup>を喋<sup>しゃべ</sup>った。
- 0098: お前<sup>まえ</sup>さん、ベルデヤエフのアッパ<sup>あご</sup>ーが顎<sup>あご</sup>にヒッ<sup>に</sup>トしたら、二<sup>に</sup>度<sup>ど</sup>と起<sup>お</sup>き上<sup>あ</sup>がれんよ。
- 0099: シゴズィは、かすれ<sup>ごえ</sup>声<sup>へ</sup>で減<sup>ぐち</sup>らず口<sup>た</sup>を叩<sup>たた</sup>く。
- 0100: タルクイーニは、塾<sup>じゅく</sup>でシュヴァルツシルト半<sup>はん</sup>径<sup>けい</sup>を学<sup>まな</sup>ぶ。
- 0101: ズギェシが出<sup>しゅ</sup>世<sup>つせ</sup>し、所<sup>しょ</sup>属<sup>ぞく</sup>部<sup>ぶ</sup>署<sup>しょ</sup>が変<sup>か</sup>わったが、実<sup>じつ</sup>質<sup>しつ</sup>的<sup>てき</sup>な左<sup>さ</sup>遷<sup>せん</sup>らしい。

0102: ピアツァは持病が<sup>じびょう</sup>悪化し<sup>あつか</sup>危篤となり、<sup>きとく</sup>脈も<sup>みやく</sup>弱々しくなってきた。

0103: 小鳥が<sup>ことり</sup>巣から<sup>す</sup>ピョコピョコと<sup>かお</sup>顔を出し、<sup>だ</sup>餌を<sup>えさ</sup>強請る。<sup>ねだ</sup>

0104: ノヴォデヴィツァ村に、<sup>むら</sup>三<sup>さんびやく</sup>百メートルはあるオシャレな<sup>はし</sup>橋が<sup>か</sup>架かった。

0105: まあ、グエンフォーが<sup>ふんがい</sup>憤慨するの<sup>むり</sup>も無理はない。

0106: ヴィニョーラとグォリーのタッグは、<sup>むてき</sup>無敵過ぎる<sup>す</sup>だろ。

0107: ピヤニーガの居酒屋で、ヴォラピュクとゲラゲラ<sup>わら</sup>笑う。

0108: グィードって、ジャパニーズだけじゃなく、<sup>ご</sup>チェマウエビ語までペラペラだって？

0109: グックァさん、パイクウミエンを<sup>つよび</sup>強火で<sup>こ</sup>焦がし<sup>こ</sup>ちゃダメだぞ？

0110: でっばりに<sup>つまず</sup>躓いて<sup>ころ</sup>転び、バニラシェイクを<sup>ころ</sup>ペルシャカーペットに<sup>ころ</sup>ぶちまけドロドロだ。

0111: コジエドゥーブは、パーフェクトな<sup>じつりよく</sup>実<sup>しや</sup>力<sup>ぎやく</sup>者で、<sup>ぎやく</sup>逆にムカつく。

0112: <sup>ねんちゃく</sup>粘<sup>ま</sup>着<sup>ま</sup>テープで<sup>ま</sup>グルグル<sup>ま</sup>巻きにして、<sup>にもつ</sup>荷物を<sup>おく</sup>送る。

0113: アクションゲームは<sup>にがて</sup>苦手だが、コンティニューがあればクリアできる。

0114: グィディッチオーニは、<sup>ひごろ</sup>日頃ポシエットにおやつを<sup>ひごろ</sup>キープしています。

0115: サチャパルは、<sup>にんき</sup>タピオカ<sup>みぬ</sup>人気の<sup>べつ</sup>かげり<sup>てんぼ</sup>を見<sup>くらが</sup>抜き、<sup>べつ</sup>別の<sup>くらが</sup>店舗に<sup>くらが</sup>鞍替えした。

0116: <sup>はで</sup>派手な<sup>みずぎ</sup>水着の<sup>みずぎ</sup>ギャロップは、<sup>みずぎ</sup>プライベート<sup>みずぎ</sup>プールで<sup>みずぎ</sup>ゆらゆら<sup>みずぎ</sup>揺れる。

0117: <sup>さきほど</sup>先程の<sup>さきほど</sup>鬼手<sup>さきほど</sup>で、<sup>さきほど</sup>ヴラニエシュと<sup>さきほど</sup>ティテュバの<sup>さきほど</sup>差が<sup>さきほど</sup>縮まった。

0118: <sup>どくとく</sup>独特の<sup>どくとく</sup>ムラが<sup>どくとく</sup>出る<sup>どくとく</sup>墨染めの<sup>どくとく</sup>生地<sup>どくとく</sup>に、<sup>どくとく</sup>ビューフィルスの<sup>どくとく</sup>技<sup>どくとく</sup>が<sup>どくとく</sup>光る。

0119: ブンチャビーは、<sup>あつりよく</sup>圧<sup>あつりよく</sup>力<sup>あつりよく</sup>鍋<sup>あつりよく</sup>や<sup>あつりよく</sup>フード<sup>あつりよく</sup>プロセッサー<sup>あつりよく</sup>での<sup>あつりよく</sup>レパ<sup>あつりよく</sup>ート<sup>あつりよく</sup>リー<sup>あつりよく</sup>が<sup>あつりよく</sup>幅<sup>あつりよく</sup>広<sup>あつりよく</sup>い。

0120: 寮母の<sup>りょうぼ</sup>ナイデョーノフが、<sup>りょうぼ</sup>初手<sup>りょうぼ</sup>五ノ<sup>りょうぼ</sup>五<sup>りょうぼ</sup>で<sup>りょうぼ</sup>観<sup>りょうぼ</sup>客<sup>りょうぼ</sup>の<sup>りょうぼ</sup>度<sup>りょうぼ</sup>肝<sup>りょうぼ</sup>を<sup>りょうぼ</sup>抜いた。

0121: レトロな<sup>かく</sup>格<sup>かく</sup>ゲーで、<sup>かく</sup>ハル<sup>かく</sup>テュニヤン<sup>かく</sup>と<sup>かく</sup>ウォ<sup>かく</sup>キエトク<sup>かく</sup>ヴナ<sup>かく</sup>が、<sup>かく</sup>五分<sup>かく</sup>の<sup>かく</sup>戦<sup>かく</sup>い<sup>かく</sup>を<sup>かく</sup>繰<sup>かく</sup>り<sup>かく</sup>広<sup>かく</sup>げる。

0122: プロイエシュティの<sup>ひろ</sup>バーで、<sup>ひろ</sup>ブラッディ<sup>ひろ</sup>メアリー<sup>ひろ</sup>を<sup>ひろ</sup>リク<sup>ひろ</sup>エスト<sup>ひろ</sup>した。

- 0123: チェルクエッティの劇<sup>げきてき</sup>的な逆<sup>ぎやくてんしょうり</sup>転勝利<sup>しゅくはい</sup>に、祝杯<sup>しゅくはい</sup>をあげましょ。
- 0124: ヴォーカルはグアヌで、ピアノ<sup>ばんそう</sup>伴奏はチェルクオツツイです。
- 0125: ヒエティルとピヴァリッチのアイディアは、率<sup>そつちよく</sup>直<sup>ごじつぽひゃつぽ</sup>に五十歩百歩です。
- 0126: ドゥブラヴカが拳<sup>こぶし</sup>を握<sup>にぎ</sup>り、ヴェツォプと君<sup>きみ</sup>が代<sup>よ</sup>を熱<sup>あつ</sup>く歌<sup>うた</sup>った。
- 0127: ドウムナグウアルは腎臓<sup>じんぞう</sup>が悪<sup>わる</sup>く、アボカドや南<sup>かぼちゃ</sup>瓜<sup>た</sup>をよく食べる。
- 0128: サラリー据<sup>す</sup>え置<sup>お</sup>きで、トゥードゥーがプラスじゃ、割<sup>わり</sup>に合<sup>あ</sup>わぬ。
- 0129: なるほど、ウィッデャーの夢<sup>ゆめ</sup>は、素手<sup>すで</sup>で白<sup>びやっこ</sup>虎<sup>ほふ</sup>を屠<sup>さ</sup>り去ることなのか？
- 0130: リュムキエヴィチがトロフィーを<sup>て</sup>手に、ガッツポーズです。
- 0131: テヨミュルタムで火傷<sup>やけど</sup>した、傷口<sup>きずぐち</sup>のガーゼを剥<sup>は</sup>がした。
- 0132: 立場<sup>たちば</sup>が弱<sup>よわ</sup>い故<sup>ゆえ</sup>に、カンビャーゾは憂<sup>う</sup>い目<sup>め</sup>にあうのです。
- 0133: ビューティーパーラーで、セミウェットな髪<sup>かみ</sup>型<sup>がた</sup>にセットだね。
- 0134: ヴォデャノーヴァが必死<sup>ひっし</sup>で根回<sup>ねまわ</sup>しし、理事<sup>りじ</sup>を丸<sup>まる</sup>め込<sup>こ</sup>めた。
- 0135: ねえねえ、パストラミビーフがパサパサして、喉<sup>のど</sup>が渴<sup>かわ</sup>くよ。
- 0136: イェスパーはピュアだから、詐欺師<sup>さぎし</sup>が騙<sup>だま</sup>すなど考<sup>かんが</sup>えの外<sup>そと</sup>だよ。
- 0137: テョーテョーと声<sup>こえ</sup>が響<sup>ひび</sup>くが、主<sup>あるじ</sup>のホールラッヒャーじゃなく、恐<sup>おそ</sup>らく野鳥<sup>やちょう</sup>だ。
- 0138: 湯冷まし向けに、ミネラルウォーターを備蓄<sup>びちく</sup>する。
- 0139: ほお、ボタン海老<sup>えび</sup>やオヒョウが、シャリと絶<sup>ぜつみょう</sup>妙<sup>すし</sup>にマッチした寿司だ。
- 0140: おっと、ドウグオンはビショップの利<sup>き</sup>きに、読<sup>よ</sup>み抜<sup>ぬ</sup>けがあったぞ。
- 0141: クェルチャは、メデューサが石化<sup>せきか</sup>させると恐<sup>おそ</sup>れ、ギュっと瞳<sup>ひとみ</sup>を閉<sup>と</sup>じた。
- 0142: リヴァーディは水<sup>みず</sup>たまりに飛<sup>と</sup>び込<sup>こ</sup>み、服<sup>ふく</sup>をビショビショに汚<sup>よご</sup>した。
- 0143: 今<sup>いま</sup>はヴォクリューズでプロデューサーやってるよ。

- 0144: ロディゲシィの写実画を、ゴージャスな額縁に入れて飾る。
- 0145: ヴォコーダーの嚆矢が気になるなら、クィウオンパを訪ねろ。
- 0146: ヒュッレムは玉座に就けたが、プレッシャーに耐えかねフレッシュに譲った。
- 0147: ルミャンツェヴォの雑居ビルに、天邪鬼のビャウエクがオフィスを持つ。
- 0148: バニユルスでは、バッファローが主役の御伽噺が名高いです。
- 0149: ティディジは、飢えた子供にスパゲッティを奢った。
- 0150: インスペクターで、プロパティをパブリックにしても平気です。
- 0151: ふむ、グォーフエイも一緒だし、先祖の墓に詣でるか。
- 0152: ヒューストンの広場で、ミャーミャーと白猫が甘えてきた。
- 0153: マクドナルドなら、ダブチよりフィレオフィッシュかな。
- 0154: 極太スピーカーケーブルをスターカッド接続でチューニングし、ジャズが艶やかだ。
- 0155: 若しくは、ミュフィデとイエギシェのペアなら勝ち目があるかも。
- 0156: デョーちゃんは下痢で遅刻だから、ヴラトゥコさんとディズニーに行こ？
- 0157: 土砂降りで床がびちゃびちゃになった。
- 0158: ヴェネツィアで遊ぶなら、やっぱりドルソドゥロでしょ。
- 0159: ミェートニエルをヒューヒューと冷やかすのは、お止めなさい。
- 0160: それこそカチュビューイにうってつけの業務じゃありませんか、ギュスターヴ？
- 0161: これはパズルで泥沼にはまり、ポロポロ泣くデュヴェルジェの図。
- 0162: ポロシャツはベージュローゼのペイズリー、髪もボディパーマでボリューミーと、  
大分垢抜けたね。
- 0163: えーと、ピエンウィライの略歴に、妙な点があるのだけど。



0164: むざむざチャンスをつぶしたビエリーイエフは、あとあとつ後々詰められた。

0165: めんぼくなきやくあしにぶ、客足が鈍っても、ごさあなど誤差だと侮ってた。

0166: かわぐつはし革靴で走れば、そりゃあずっこけるなあ。

0167: しゅびりよくきたフュレは守備力を鍛え、こうげきりよくとっか攻撃力に特化し、パラメータをわり振る。

0168: ヴァスィーリョヴィチュは、みょうしゅセパタクローの妙手だった。

0169: しっちゅズブズブと湿地を往く、もくてきちヘッフエルフィンガーの目的地はピゾーニエ。

0170: なぞ謎のヴェールにつつまれたギャングのボスがすがたあらわした、ぼふ下っ端がひれ伏した。

0171: くんひゃくくらいししゃごにゆうサピエジナ君、百の位で四捨五入したまえ。

0172: せんれつほへい戦列歩兵のトゥトゥシュが、しょうごうえフューズィリエの称号を得る。

0173: こうさつざんぎやくゆるウェイスィーが絞殺され、いぞくいかふる残虐で許しがたいと遺族が怒りに震えた。

0174: めえとくいりっぱまんがか塗り絵が得意なアーケットは、きっと立派な漫画家になるだろう。

0175: じんじゅつたけつぶつドーヴェルニユは、仁術に長けた傑物だ。

0176: みりよくえかみかざヴェスィエールの魅力は、にこやかな笑みとシルバーの髪飾りです。

0177: さまほんじつござデヴォグィラ様、本日のディナーで御座います。

0178: あぶらかおひたチヨレギサラダは、ごま油の香りでキュウリが引き立つ。

0179: おもしろことわざウィキクォートやウィクシヨナリーに、面白い諺があった。

0180: ききさっちひなんウィウイシットが危機を察知して、ウォロドゥーグーのヴィラに避難した。

0181: ひとごとひそひとくぐまくじょあたまかずふ人里に潜む人食い熊の駆除なら、もっと頭数を増やすべきだろ。

0182: クェジュはメジャーレーベルのミュージシャンで、ディスコグラフィもはなばな華々しい。

0183: きろくこベストウージェフは、プロフェッサーキューブでヨーロッパ記録を超えた。

0184: きょじゅうともだちブレイジツェに居住するリエトゥヴォスは、ポジティブな友達です。

- 0185: やっぱクアッドコアでのパラレル<sup>しより</sup>処理は、スリーディーグラフィックスも爆<sup>ばく</sup>速<sup>そく</sup>だねえ。
- 0186: 伊弉諾<sup>いざなぎじんぐう</sup>神宮は、淡路市<sup>あわじし</sup>にあるぞ。
- 0187: ツェルクヴェニャクのパノラマを、セピアのフィルムに<sup>や</sup>焼<sup>つ</sup>き付ける。
- 0188: フィラデルフィアでファストフードなら、やはりドムドムバーガーか。
- 0189: フューチャーベースは、ダンスミュージックに<sup>い</sup>位<sup>ち</sup>づけられる。
- 0190: ヴィタニエの大規模<sup>だいきぼ</sup>コミュニティに、クイリチが<sup>かに</sup>加<sup>ゆう</sup>入した。
- 0191: ファティマは、床屋<sup>とこや</sup>でミディアムヘアをボブに<sup>ととの</sup>整<sup>け</sup>え、毛先<sup>けさき</sup>をポピーレッドに<sup>そ</sup>染めた。
- 0192: アグニューはスズメバチに<sup>さ</sup>刺され、アナフィラキシーショックで<sup>たお</sup>倒れた。
- 0193: 頬肉<sup>ほほにく</sup>は柔<sup>やわ</sup>らかく、煮込<sup>にこ</sup>むと絶品<sup>ぜっぴん</sup>の舌触<sup>したざわ</sup>りですね。
- 0194: ビャウイストクは<sup>あこが</sup>憧<sup>ばしょ</sup>れの場所<sup>つぎ</sup>で、ニューヨークの次<sup>りょうこう</sup>に旅行したいね。
- 0195: ブツブツ愚痴<sup>ぐち</sup>ってるが、タブーは<sup>おか</sup>冒すべからずだよ、ミスタープロビエジュ。
- 0196: ピャオが一<sup>ひとはだぬ</sup>肌脱ぎ、プロデョース旗揚げ<sup>はたあ</sup>を支<sup>ささ</sup>えた。
- 0197: ガイアシュペヘラーのメロディーは、どこかノスタルジーだ。
- 0198: セブントウウエンティ、フリップウィップからスリーシックスティへ<sup>つな</sup>繋ぐ。
- 0199: ズヴェーヴォは、ウォシュレットは<sup>ひつじゅひん</sup>必需品だと、フォリニャーノのデパートを<sup>かいちく</sup>改築した。
- 0200: ビェニャク殿、敵<sup>どの</sup>の戦<sup>てき</sup>力<sup>せんりょく</sup>は、六<sup>ろ</sup>百<sup>びゃく</sup>から八<sup>は</sup>百<sup>びゃく</sup>です。
- 0201: テョバニがテャーテャー鳴<sup>な</sup>く不思議<sup>ふしぎ</sup>な鳥<sup>とり</sup>を<sup>はっけん</sup>発見し、学<sup>がつかい</sup>会<sup>はっぴょう</sup>で発表した。
- 0202: エーミャピューが<sup>ひゃく</sup>百<sup>ひろ</sup>ドル拾<sup>り</sup>い、律儀<sup>りちぎ</sup>に持<sup>も</sup>ち主<sup>ぬし</sup>を<sup>さが</sup>探した。
- 0203: プラズマが<sup>かか</sup>関わるプロジェクトなら、エヴギェーニイさえ<sup>くわ</sup>加わればな一。
- 0204: パスカリーノに、ペスカトーレのピッツァとウイスキーを<sup>わた</sup>渡してきて。
- 0205: ある日<sup>ひ</sup>、クウイリーヌスは、何気<sup>なにげ</sup>なく学<sup>がく</sup>者<sup>しゃ</sup>への道<sup>みち</sup>を<sup>こころざ</sup>志した。

- 0206: 確<sup>たし</sup>かアウィツォトルは、アグエパネラが好<sup>こうぶつ</sup>物だったっけ。
- 0207: ビューマーは、密閉<sup>みつぺいがた</sup>型ヘッドセットで、ビデオチャットに没<sup>ぼつにゆう</sup>入する。
- 0208: ベルトが摩<sup>ま</sup>耗<sup>もう</sup>し千<sup>ち</sup>切<sup>ぎ</sup>れたら、ギュリッポスに換<sup>か</sup>えてもらって。
- 0209: 師走<sup>しはす</sup>にラボで牛<sup>ぎゅう</sup>乳<sup>にゆう</sup>を配<sup>くば</sup>り、ついでにグアテマラのコーヒー豆<sup>まめ</sup>で、  
カプチーノも作<sup>つく</sup>ってみた。
- 0210: キャパオーバーでスケジュールが破綻<sup>はたんぎみ</sup>気味なので、ヘルプを頼<sup>たの</sup>む。
- 0211: シェミエノヴィチが、ニューウェイヴにはまったってマジで？
- 0212: いや、ポルフィリオスは絶<sup>ぜ</sup>対<sup>たい</sup>に嫡<sup>ちやく</sup>出<sup>しゅつ</sup>子<sup>し</sup>ですって。
- 0213: モロに石田<sup>いしだ</sup>流<sup>りゅう</sup>崩<sup>くず</sup>しの筋<sup>すじ</sup>で、香<sup>きょう</sup>車<sup>しゃ</sup>の一手<sup>いって</sup>まで流<sup>なが</sup>れるな。
- 0214: ダリユーゲの身勝手<sup>みがって</sup>なプロポーザルに、呆<sup>あき</sup>れ果<sup>は</sup>てました。
- 0215: ツェルクヴェニャクへの視察<sup>しさつ</sup>の途<sup>と</sup>中<sup>ちゆう</sup>で、シェントイェルニエイに寄<sup>よ</sup>る。
- 0216: はじめまして、教<sup>きょう</sup>授<sup>じゆ</sup>の末<sup>まつ</sup>席<sup>せき</sup>を汚<sup>けが</sup>す、ラドゥロヴィチです。
- 0217: 小<sup>ちい</sup>さいパパラチアサファイアだが、ラピスラズリ並<sup>な</sup>みに高<sup>たか</sup>いぜ。
- 0218: さあ、ウィルヒョーの屋敷<sup>やしき</sup>に出<sup>しゅつ</sup>発<sup>ぱつ</sup>だ。
- 0219: プツオンツイで、シュアイジャオを極<sup>きわ</sup>めるぞ。
- 0220: ブレゾヴィツァで悪事<sup>あくじ</sup>を謀<sup>はか</sup>ると、即座<sup>そくざ</sup>に捕縛<sup>ほぼく</sup>されるぜ？
- 0221: ギラギラとした日差<sup>ひざ</sup>しの中<sup>なか</sup>、チグウはスクォミッシ語<sup>ご</sup>を話<sup>はな</sup>す。
- 0222: スイトジェフティは、微々<sup>びび</sup>たるミスで受<sup>じゅ</sup>賞<sup>しょう</sup>を逃<sup>のが</sup>し、悔<sup>く</sup>し涙<sup>なみだ</sup>が頬<sup>ほ</sup>を伝<sup>つた</sup>う。
- 0223: フェデリコが、ギャラアッパをディレクターに掛<sup>か</sup>け合<sup>あ</sup>ったが、却<sup>きゃ</sup>下<sup>つ</sup>された。
- 0224: ウイドウイドとは、甚<sup>はなは</sup>だ遠<sup>とお</sup>い街<sup>まち</sup>から久<sup>ひさ</sup>々<sup>びさ</sup>の客<sup>きやく</sup>だぜ。
- 0225: ヴォルピヤーノのディナーは、チップ込み<sup>こ</sup>で五<sup>ご</sup>百<sup>ひゃく</sup>ユーロでした。

0226: 枝垂れ<sup>しだ</sup> 柳<sup>やなぎ</sup> を目印<sup>めじるし</sup>に、真直ぐ<sup>まっす</sup> 進め<sup>すす</sup>。

0227: 茗荷谷<sup>みょうがだに</sup> からメトロに<sup>の</sup> 乗り継ぎ<sup>つ</sup>で、荻窪<sup>おぎくぼ</sup> まで直<sup>ちよっこう</sup> 行<sup>こう</sup> ですね。

0228: ジトミーエシュが、マニュアルに<sup>したが</sup> 従<sup>したが</sup> っ<sup>つ</sup>て、フォークリフトで土<sup>つち</sup>を<sup>はこ</sup> 運ぶ<sup>はこ</sup>。

0229: カラデョウエが、河魚腹疾<sup>かぎよのふくしつ</sup> とならぬよう、デミードヴァ<sup>じんりよく</sup> が尽<sup>じんりよく</sup> 力<sup>りよく</sup> する。

0230: ドゥブオーニュは旅費<sup>りょひ</sup>を見誤<sup>みあやま</sup>り、自腹<sup>じばら</sup>でカバーする。

0231: 繭<sup>まゆ</sup>の内側<sup>うちがわ</sup>に虫<sup>むし</sup>が<sup>し</sup> いると知<sup>し</sup>り、シュテヒャーはゾつとした。

0232: プロゴルファーのネマツァデ<sup>おやじ</sup>は、へボ親父<sup>ひやく</sup>でも百<sup>き</sup> のスコア<sup>き</sup>を切<sup>き</sup>れると豪語<sup>ごうご</sup>する。

0233: 明<sup>みょうちよう</sup> 朝<sup>もみじが</sup> から紅葉狩<sup>きよう</sup>りに興<sup>ご</sup> じ、午後<sup>ご</sup>は自室<sup>じしつ</sup>でカトリエーティ<sup>じしつ</sup>でも。

0234: わざわざクエードに寝酒<sup>ねざけ</sup>をあげるとは。

0235: トニヤツツイもアラフォーとなり、発言<sup>はつげん</sup>の刺々<sup>とげとげ</sup>しさ<sup>へ</sup>が減<sup>まる</sup>り、丸<sup>まる</sup> くなったな。

0236: ンゼオグウがグビグビとビールをイッキ<sup>はくしゅ</sup>し、ブラボーと拍手<sup>わ</sup>が沸<sup>わ</sup>いた。

0237: 私<sup>わたくし</sup> 事<sup>ごと</sup>で恐<sup>きようしゆく</sup> 縮<sup>しゆく</sup> ですが、しばしお暇<sup>ひま</sup>を頂戴<sup>ちようだい</sup>したく存<sup>ぞん</sup>じます。

0238: ミエジェライティス<sup>ひとり</sup> 一人<sup>ひとり</sup>でライブ<sup>きゃく</sup>やっても、客<sup>かく</sup>は確<sup>かく</sup> 実<sup>じつ</sup>に埋<sup>う</sup>まりますよ。

0239: アッスィーズィで、ヴァーチャルリアリティのアプリがリリースされた。

0240: マメダヤロフは、写<sup>しゃ</sup> 経<sup>きよう</sup> でメンタルをニュートラルに<sup>もど</sup> 戻<sup>もど</sup> せる。

0241: キューザを<sup>たぶら</sup> 誑<sup>たぶら</sup> かし<sup>まじよ</sup>たキャロルは、魔女<sup>たぐ</sup>の類<sup>たぐ</sup> いだぜ。

0242: 荒れ狂<sup>あ</sup>う嵐<sup>くる</sup> で、棧橋<sup>あらし</sup>にピタリと船<sup>さんばし</sup>をつけるのは、私<sup>ふね</sup>でも不<sup>わたし</sup> 可<sup>ふ</sup> 能<sup>かのう</sup>だよ。

0243: ボーナスをハイスペックコンピューターにつぎ込み、すでに<sup>こ</sup> 懐<sup>ふところ</sup> が寂<sup>さび</sup>しい。

0244: 紅<sup>くれない</sup> の豚<sup>ぶた</sup>は、グアツツオーニが<sup>もつと</sup> 最<sup>えいきよう</sup> も影<sup>えいが</sup> 響<sup>えいが</sup> されたジブリ映画です。

0245: チラヴェーニヤのヴォーカルデュオがのし上がり、メディア露出<sup>ろしゆつ</sup>で引<sup>ひ</sup> 張<sup>ば</sup>りだこだ。

0246: クィザンヌが、へそ曲<sup>ま</sup>がりのヴェツツェラを助<sup>じょしゆせき</sup> 手<sup>はまべ</sup> 席<sup>はまべ</sup>に、浜<sup>はま</sup> 辺<sup>べ</sup>へドライブだと。

0247: オーギュスティーヌが<sup>えら</sup>選んだ<sup>じゅんぱく</sup>純白のドレスに、プラチナティアラが<sup>は</sup>映える。

0248: ピスタチオジェラートが、ベディッツォーレでブームです。

0249: アダムとイヴで、ティツィアーノ・ヴェチェッリオの<sup>かいが</sup>絵画を<sup>おも</sup>思い出す<sup>だ</sup>。

0250: 百合の<sup>ゆり</sup>パフュームを<sup>たずさ</sup>携えて、ベネトウッティの<sup>こきやく</sup>顧客とミーティングだ。

0251: ピエトリャコフは<sup>ぎりがた</sup>義理堅いから、ピンチになれば<sup>たす</sup>助けに<sup>く</sup>来るさ。

0252: ソビエスカは、ストップウォッチを<sup>いっぶん</sup>一分<sup>と</sup>ピッタリで止められる。

0253: パウダースノーはスキーもスノボもべたつかず、<sup>ごくじょう</sup>極上<sup>ゆきしつ</sup>の雪質だ。

0254: 月曜日は、エステティシヤンのユーリエヴナが、<sup>げつようび</sup>施術<sup>せじゅつ</sup>係<sup>がかり</sup>だ。

0255: ヴィクトリーヌは、古今和歌集の<sup>こきんわかしゅう</sup>芸術<sup>げいじゅつ</sup>性<sup>せい</sup>に<sup>ほ</sup>惚れ込む<sup>こ</sup>。

0256: グイナムのポジションはクォーターバックで、<sup>まれ</sup>稀にディフェンシブエンドもやる。

0257: 職<sup>しょくば</sup>場<sup>みだ</sup>で淫らなトピックはセクハラだぜ、セデーニョ。

0258: テグラシィーは、ヌプツェの<sup>いただき</sup>頂<sup>めざ</sup>を<sup>ちか</sup>目指すと誓った。

0259: ディスポーザーがあれば、<sup>なま</sup>生<sup>きが</sup>ゴミを<sup>しょぶん</sup>気軽に処<sup>しょぶん</sup>分<sup>ぶん</sup>できます。

0260: 部下<sup>ぶか</sup>が寝<sup>ね</sup>返<sup>がえ</sup>り、イエグノヴツェから夜逃<sup>よ</sup>げとは悲<sup>かな</sup>しいね。

0261: ラズィーヤの<sup>つぶや</sup>呟<sup>むっ</sup>きに、六<sup>きよぎ</sup>つの虚偽がある。

0262: ほら、コザークィはまだまだ口下<sup>くちべた</sup>手で、プレゼンなど無<sup>む</sup>茶<sup>ちゃ</sup>だってば。

0263: クレスチャンは、ノブレスオブリージュが<sup>きぞく</sup>貴族<sup>ぎむ</sup>の義務だとスピーチした。

0264: 韓<sup>かん</sup>国<sup>こく</sup>で<sup>はっしょう</sup>発祥したケーポップが、ビルボードチャートで<sup>しゅい</sup>首位<sup>しゅい</sup>になった。

0265: トゥーヒエンバツハなら、ここからプロペラ<sup>き</sup>機<sup>き</sup>のチャーターが<sup>やすあ</sup>安上<sup>やすあ</sup>がりだね。

0266: 肥溜<sup>こえだ</sup>めは江戸時代<sup>えどじだい</sup>に利用されたが、現代<sup>りよう</sup>では既<sup>げん</sup>に<sup>す</sup>廃<sup>す</sup>れた設備<sup>せつび</sup>だ。

0267: ミュンヒェベルクは、ピエプシュをたっぷりかけたポーランド<sup>りょうり</sup>料<sup>す</sup>理<sup>り</sup>が好きなだ。

- 0268: 萎縮<sup>いしゆく</sup>せず、フェイゾーリオまで抜けなく調<sup>ぬ</sup>べるぞ。
- 0269: マリニャースの件なら、時局<sup>じきよく</sup>に鑑<sup>かん</sup>みて決<sup>け</sup>定<sup>てい</sup>すべき。
- 0270: フュレプとエスティガリビャが、連<sup>れん</sup>続<sup>ぞく</sup>したデュースでまだ決<sup>け</sup>着<sup>ちゃく</sup>しない。
- 0271: 鎖<sup>くさり</sup>に付<sup>つ</sup>いた鎌<sup>かま</sup>を、ズィーズィーは苦<sup>く</sup>も無<sup>な</sup>くビュンビュン振<sup>ふ</sup>り回<sup>まわ</sup>す。
- 0272: ヴラセニツァのレセプションで盛<sup>も</sup>り上<sup>あ</sup>がったのは、ヒヨロヒヨロなペッツアーツェ。
- 0273: クィズィルツで採<sup>と</sup>れたブルーベリーは、格<sup>かく</sup>別<sup>べつ</sup>に美<sup>う</sup>味<sup>ま</sup>い。
- 0274: そりゃー成果主義<sup>せいかしゆぎ</sup>は、ヒューマニズムでトッパになれる程<sup>ほど</sup>楽<sup>らく</sup>じゃないぜ。
- 0275: 蚊<sup>か</sup>に血<sup>ち</sup>をチューチュー吸<sup>す</sup>われたと、グィネスは腫<sup>は</sup>れた箇所<sup>かしよ</sup>にムヒを塗<sup>ぬ</sup>った。
- 0276: それで、ステューウィーが振<sup>ふ</sup>り飛<sup>び</sup>車<sup>しゃ</sup>にした狙<sup>ね</sup>いは、シェミェンスキにバレバレでしたね。
- 0277: スポーツはやらぬが、競馬<sup>けいば</sup>ならウィジャボードのファンだよ。
- 0278: 部屋<sup>へ</sup>に書<sup>しょ</sup>斎<sup>さい</sup>が欲<sup>ほ</sup>しいけど、スペースを圧<sup>あ</sup>迫<sup>つぱく</sup>するからと、イエヒェルは首<sup>くび</sup>を縦<sup>たて</sup>に振<sup>ふ</sup>らない。
- 0279: 二世<sup>にせ</sup>を契<sup>ちぎ</sup>ると、ピョトロヴィツェは心<sup>こころ</sup>に刻<sup>きざ</sup>む。
- 0280: クオツパマキの略<sup>りゃくれき</sup>歴<sup>はな</sup>は華<sup>げ</sup>やかだが、下戸<sup>こ</sup>で酒癖<sup>さけぐせ</sup>が酷<sup>ひど</sup>い。
- 0281: アナグラムでスペクトラムがケプストラム、フリクエンシーがケフレンシー、  
フィルターがリフターか。
- 0282: ジェニファは、旦那<sup>だんな</sup>と口舌<sup>くぜつ</sup>が絶<sup>た</sup>えぬ一方<sup>いっぽう</sup>、別居<sup>べっきよ</sup>もせず日々<sup>ひび</sup>を過<sup>す</sup>ごす。
- 0283: パティシエになるなら、ペティナイフの技<sup>ぎ</sup>術<sup>じゆつ</sup>も貪<sup>どん</sup>欲<sup>よく</sup>に会<sup>え</sup>得<sup>とく</sup>しなきゃ。
- 0284: グアルティエーロの業<sup>ぎよう</sup>績<sup>せき</sup>を、一<sup>ひと</sup>言<sup>こと</sup>で論<sup>ろん</sup>評<sup>びよう</sup>すればイマイチ。
- 0285: フォルテュナトゥスは無罪<sup>むざい</sup>を訴<sup>う</sup>えたが、結<sup>け</sup>局<sup>つきよく</sup>禁錮<sup>きんこ</sup>五<sup>ご</sup>か月<sup>げつ</sup>であった。
- 0286: グォーグァへの旅<sup>たび</sup>なら、陸路<sup>りくろ</sup>がお勧<sup>すす</sup>めですね。
- 0287: グォリヤンの差<sup>さ</sup>し金<sup>がね</sup>で、新<sup>あら</sup>たな武<sup>ぶ</sup>道<sup>どう</sup>を興<sup>おこ</sup>すと？

0288: ピエユスクが、ピタパのオートチャージを<sup>あっぱ</sup>天晴れと<sup>ひょうか</sup>評価した。

0289: <sup>はだざわ</sup>肌触りにこだわり、<sup>はだぎ</sup>肌着はキュプラかポリエステルです。

0290: ツエツヒエは、<sup>ふじ</sup>不治の<sup>びょうき</sup>病気で<sup>ふ</sup>伏した<sup>やぼう</sup>ビョンギュの<sup>つ</sup>野望を継ぐ。

0291: キャロットのピュレがベースの、まろやかなポタージュスープをご<sup>たんのう</sup>堪能ください。

0292: ブグウは<sup>ひとご</sup>人混みを<sup>ぬ</sup>すり抜けながら、<sup>えき</sup>ウェグアン駅を<sup>ある</sup>ブラブラ歩く。

0293: ピツエッティは、<sup>わず</sup>僅かなハンディキャップさえあれば、<sup>ごかく</sup>プロとほぼ互角か？

0294: <sup>よ</sup>読みやすく<sup>しつびつ</sup>執筆された<sup>かいせつしょ</sup>解説書を、<sup>とくほん</sup>読本と呼ぶ。

0295: それならば、<sup>ここ</sup>個々が<sup>う</sup>でき得る<sup>じゅうぶん</sup>フォローでも十分では？

0296: ヴァシリェヴィッチはスタミナもあり、フォワードやミッドフィルダーもこなせるぜ。

0297: デグテャリョーフは、<sup>ちゅう</sup>レポートの<sup>み</sup>チェック中<sup>げきど</sup>にコピペを見つけ<sup>げきど</sup>激怒した。

0298: <sup>いりぐち</sup>入口のメニューだと、<sup>じか</sup>どのコースも時価だそうです。

0299: フィレンツェでは、<sup>さくひん</sup>ボッティチェリの<sup>きたい</sup>作品に期待してます。

0300: ディユドネって、<sup>かし</sup>サーモグラフィや<sup>じんたい</sup>シーティーで<sup>ねっきょう</sup>可視化された人体に<sup>ねっきょう</sup>熱狂するの。

0301: ローズクォーツのネックレスが、<sup>く</sup>ケラゴベの<sup>く</sup>トレードマークなのですね。

0302: <sup>きよくど</sup>極度の<sup>ひろう</sup>疲労からか、<sup>ひるま</sup>昼間からくうーくうーと、<sup>ねいき</sup>プロイェシュティの<sup>ねいき</sup>寝息がする。

0303: タロフュアが、<sup>さんみやく</sup>エスピニャソ<sup>みち</sup>山脈で、<sup>にく</sup>未知の<sup>え</sup>獣の肉を獲た。

0304: <sup>かく</sup>カンピョーネの<sup>が</sup>隠れ家で、<sup>め</sup>ラゾビッチに<sup>あ</sup>ボロネーゼを<sup>いただ</sup>召し上がって頂く。

0305: <sup>じつ</sup>ジェノヴェーゼって<sup>びみ</sup>実に<sup>まいにち</sup>美味で、<sup>く</sup>毎日でも<sup>く</sup>食いたいなー。

0306: <sup>ふにん</sup>ペヴェラーニョへの<sup>かくてい</sup>赴任が<sup>かくてい</sup>確定し、<sup>かくてい</sup>やれやれといったところか。

0307: <sup>しつれい</sup>失礼します、<sup>ま</sup>ヴェプショヴァー・<sup>ま</sup>ペチェニェで<sup>ま</sup>お待ちのお<sup>きやくさま</sup>客様。

0308: <sup>きじ</sup>パティーニョの<sup>ふく</sup>記事は<sup>ふく</sup>デマも<sup>もうひょうたざい</sup>含むし、<sup>まつび</sup>妄評<sup>か</sup>多罪と<sup>か</sup>末尾に書くべき。

0309: 来<sup>らい</sup>月<sup>げつ</sup>下<sup>げ</sup>旬<sup>じゆん</sup>から、元<sup>もと</sup>紺<sup>こん</sup>屋<sup>や</sup>町<sup>まち</sup>でア<sup>あ</sup>ーティ<sup>て</sup>テ<sup>て</sup>ョ<sup>ょ</sup>ーク<sup>く</sup>の種<sup>たね</sup>を入<sup>い</sup>荷<sup>にゆうか</sup>する。

0310: デ<sup>で</sup>ェ<sup>え</sup>ウ<sup>う</sup>ィ<sup>い</sup>ン<sup>ん</sup>には、へ<sup>や</sup>っ<sup>く</sup>ぽ<sup>しゃ</sup>こ<sup>こ</sup>役<sup>やく</sup>者<sup>しゃ</sup>っ<sup>や</sup>ぽ<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>エ<sup>え</sup>ピ<sup>ぴ</sup>ソ<sup>そ</sup>ード<sup>ど</sup>が、山<sup>やま</sup>ほ<sup>ほ</sup>ど<sup>ど</sup>ある。

0311: イ<sup>い</sup>ェ<sup>え</sup>ヴ<sup>ぶ</sup>リ<sup>り</sup>ッ<sup>さ</sup>チ<sup>ま</sup>様<sup>さま</sup>、マ<sup>ま</sup>グ<sup>ぎ</sup>ロ<sup>よせん</sup>漁<sup>ふなよ</sup>船<sup>に</sup>で<sup>みち</sup>の船<sup>じごく</sup>酔<sup>い</sup>は、逃<sup>に</sup>げ<sup>みち</sup>道<sup>い</sup>が<sup>い</sup>ない<sup>い</sup>地<sup>ち</sup>獄<sup>ごく</sup>です。

0312: ヴ<sup>り</sup>ェ<sup>くとう</sup>ロ<sup>れきし</sup>ーズ<sup>し</sup>は陸<sup>りくとう</sup>稲<sup>れきし</sup>の歴<sup>れきし</sup>史<sup>し</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>、ミ<sup>み</sup>ェ<sup>え</sup>シ<sup>し</sup>ュ<sup>ゆ</sup>コ<sup>こ</sup>がビ<sup>び</sup>ュ<sup>ゆ</sup>ー<sup>えい</sup>ティ<sup>てい</sup>フル<sup>ふ</sup>と褒<sup>ほ</sup>めた。

0313: 原<sup>はら</sup>っ<sup>は</sup>ば<sup>ば</sup>で、グ<sup>ぐ</sup>ァ<sup>あ</sup>ダ<sup>だ</sup>ニ<sup>に</sup>ー<sup>え</sup>ノ<sup>の</sup>とご<sup>と</sup>ろ<sup>ろ</sup>寝<sup>ね</sup>しグ<sup>ぐ</sup>ミ<sup>み</sup>を<sup>を</sup>噛<sup>か</sup>む。

0314: ホ<sup>み</sup>ミ<sup>か</sup>ヤ<sup>ぎ</sup>コ<sup>こ</sup>ーフ<sup>ふ</sup>は、テ<sup>て</sup>ュ<sup>ゆ</sup>ゾ<sup>ぞ</sup>ー<sup>お</sup>を<sup>を</sup>見<sup>み</sup>限<sup>かぎ</sup>り<sup>り</sup>リ<sup>り</sup>ス<sup>す</sup>ト<sup>と</sup>ラ<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>た。

0315: 激<sup>げ</sup>辛<sup>き</sup>のフ<sup>ふ</sup>ォ<sup>お</sup>グ<sup>ぐ</sup>ォ<sup>お</sup>を<sup>を</sup>食<sup>しょく</sup>し、食<sup>しょく</sup>後<sup>ご</sup>も<sup>も</sup>し<sup>し</sup>ば<sup>ば</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>汗<sup>あせ</sup>が<sup>が</sup>引<sup>ひ</sup>か<sup>か</sup>ない。

0316: あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>ね<sup>ね</sup>、鮮<sup>せん</sup>魚<sup>ぎよ</sup>じ<sup>じ</sup>ゃ<sup>あ</sup>ない<sup>い</sup>魚<sup>さかな</sup>の<sup>の</sup>刺<sup>さ</sup>身<sup>しみ</sup>は、食<sup>しょく</sup>中<sup>ちゆう</sup>毒<sup>どく</sup>が<sup>が</sup>怖<sup>こわ</sup>い<sup>い</sup>です<sup>す</sup>って。

0317: 奴<sup>やつ</sup>の<sup>の</sup>、マ<sup>あ</sup>ラ<sup>あし</sup>ヴィ<sup>と</sup>ー<sup>と</sup>リ<sup>じせつ</sup>ャ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>揚<sup>あ</sup>げ<sup>あし</sup>足<sup>と</sup>を<sup>を</sup>取<sup>と</sup>り<sup>じせつ</sup>自<sup>じ</sup>説<sup>せつ</sup>を<sup>を</sup>プ<sup>く</sup>ッ<sup>く</sup>シ<sup>し</sup>ュ<sup>し</sup>する<sup>する</sup>や<sup>や</sup>り<sup>り</sup>口<sup>くち</sup>、

あ<sup>あ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>さ<sup>さ</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>癩<sup>しゃく</sup>に<sup>に</sup>障<sup>さわ</sup>る<sup>る</sup>ね<sup>ね</sup>え。

0318: グ<sup>けい</sup>ィ<sup>い</sup>チャ<sup>びやく</sup>ンド<sup>わ</sup>ウト<sup>と</sup>は、啓<sup>けい</sup>白<sup>びやく</sup>が<sup>が</sup>分<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>戸<sup>と</sup>惑<sup>まど</sup>った。

0319: イ<sup>ひ</sup>ェ<sup>たい</sup>ヴ<sup>け</sup>ティ<sup>が</sup>ッ<sup>が</sup>チ<sup>が</sup>は<sup>が</sup>額<sup>びよう</sup>を<sup>を</sup>怪<sup>いん</sup>我<sup>ぬ</sup>し、病<sup>び</sup>院<sup>やう</sup>で<sup>で</sup>縫<sup>ぬ</sup>っ<sup>ぬ</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>ら<sup>ら</sup>った。

0320: 弑<sup>にげ</sup>撃<sup>き</sup>決<sup>けつ</sup>殺<sup>さつ</sup>って<sup>つ</sup>必<sup>ひ</sup>殺<sup>さつ</sup>技<sup>わざ</sup>の<sup>の</sup>語<sup>ご</sup>感<sup>かん</sup>が<sup>が</sup>か<sup>か</sup>っ<sup>つ</sup>こ<sup>こ</sup>い<sup>い</sup>い。

0321: ピ<sup>ふ</sup>ェ<sup>きつ</sup>ル<sup>で</sup>ヴォ<sup>きごと</sup>マイ<sup>ま</sup>スク<sup>い</sup>で<sup>で</sup>不<sup>ふ</sup>吉<sup>きつ</sup>な<sup>な</sup>出<sup>で</sup>来<sup>き</sup>事<sup>ごと</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>の<sup>の</sup>が<sup>が</sup>、シャ<sup>しや</sup>ピ<sup>ぴ</sup>ュ<sup>ゆ</sup>イ<sup>い</sup>サ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>予<sup>よ</sup>言<sup>げん</sup>。

0322: デ<sup>き</sup>ャ<sup>り</sup>デ<sup>さめ</sup>ュ<sup>め</sup>ンは霧<sup>めが</sup>雨<sup>ね</sup>で眼<sup>くも</sup>鏡<sup>ぬ</sup>が曇<sup>ぬ</sup>り、泥<sup>ぬ</sup>濘<sup>かるみ</sup>で滑<sup>すべ</sup>っ<sup>すべ</sup>て<sup>て</sup>ズ<sup>ず</sup>ボ<sup>ぼ</sup>ン<sup>ん</sup>も<sup>も</sup>グ<sup>ぐ</sup>シ<sup>し</sup>ョ<sup>ょ</sup>グ<sup>ぐ</sup>シ<sup>し</sup>ョ<sup>ょ</sup>だ<sup>だ</sup>った。

0323: グ<sup>ちつ</sup>ァ<sup>じょ</sup>ナ<sup>む</sup>ファ<sup>し</sup>ト<sup>し</sup>で秩<sup>ちつ</sup>序<sup>じょ</sup>を<sup>を</sup>無<sup>む</sup>視<sup>し</sup>し<sup>し</sup>たら<sup>ら</sup>ヤ<sup>や</sup>バ<sup>ば</sup>イ<sup>い</sup>よ<sup>よ</sup>、グ<sup>ぐ</sup>ァ<sup>あ</sup>ン<sup>ん</sup>ギ<sup>ぎ</sup>ュ<sup>ゅ</sup>。

0324: ア<sup>あ</sup>ズ<sup>せ</sup>ィ<sup>い</sup>ー<sup>え</sup>ザ<sup>あ</sup>よ<sup>よ</sup>、焦<sup>あせ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>っ<sup>っ</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>や<sup>や</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>ょう<sup>ょう</sup>や。

0325: フ<sup>ふ</sup>ェ<sup>とん</sup>ザ<sup>ねむ</sup>ー<sup>む</sup>の布<sup>ふ</sup>団<sup>とん</sup>です<sup>す</sup>や<sup>や</sup>す<sup>す</sup>や<sup>や</sup>眠<sup>ね</sup>る<sup>る</sup>、ビ<sup>び</sup>ュ<sup>ゆ</sup>ー<sup>えい</sup>ヒ<sup>ひ</sup>ェ<sup>え</sup>ン<sup>ん</sup>バ<sup>ば</sup>ッ<sup>つ</sup>ハ<sup>は</sup>が<sup>が</sup>幸<sup>しあ</sup>せ<sup>わ</sup>そう<sup>そう</sup>。

0326: シ<sup>ぜん</sup>ェ<sup>ぶ</sup>ン<sup>か</sup>キ<sup>か</sup>ェ<sup>か</sup>ウ<sup>か</sup>ィ<sup>か</sup>ツ<sup>か</sup>ツ<sup>か</sup>は、フ<sup>ふ</sup>ォ<sup>お</sup>ー<sup>お</sup>カ<sup>か</sup>ー<sup>か</sup>ド<sup>ど</sup>に<sup>に</sup>チ<sup>ち</sup>ッ<sup>っ</sup>プ<sup>ぷ</sup>を<sup>を</sup>全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>賭<sup>ど</sup>け<sup>け</sup>た。

0327: プ<sup>さ</sup>ロ<sup>き</sup>グ<sup>き</sup>ラ<sup>き</sup>ム<sup>き</sup>の<sup>の</sup>コ<sup>こ</sup>ン<sup>こ</sup>パ<sup>こ</sup>ィ<sup>こ</sup>ル<sup>こ</sup>より<sup>より</sup>、フ<sup>ふ</sup>ァ<sup>ふ</sup>ーム<sup>ふ</sup>ウ<sup>う</sup>ェ<sup>え</sup>ア<sup>え</sup>の<sup>の</sup>ア<sup>あ</sup>ッ<sup>あ</sup>プ<sup>あ</sup>デ<sup>あ</sup>ー<sup>あ</sup>ト<sup>あ</sup>が<sup>が</sup>先<sup>さき</sup>だ。

0328: ブ<sup>り</sup>ル<sup>り</sup>ー<sup>り</sup>ト<sup>り</sup>ウ<sup>り</sup>ース<sup>り</sup>の<sup>の</sup>オー<sup>お</sup>ディ<sup>お</sup>オ<sup>お</sup>レ<sup>お</sup>シー<sup>お</sup>バー<sup>お</sup>が、良<sup>り</sup>コ<sup>り</sup>ス<sup>り</sup>パ<sup>り</sup>だ<sup>だ</sup>と<sup>と</sup>？



- 0329: ヒェロニムはケチで、真<sup>まなつ</sup>夏<sup>じゅうつ</sup>でも十<sup>はな</sup>キロ離<sup>ひゃっきん</sup>れた百<sup>はし</sup>均<sup>はし</sup>へ、チャリで走<sup>はし</sup>る。
- 0330: 随<sup>ずいぶん</sup>分<sup>ま</sup>間<sup>ぬ</sup>抜<sup>はなし</sup>けな話<sup>ねんび</sup>だが、燃<sup>わす</sup>費<sup>つ</sup>を忘<sup>ばし</sup>れ突<sup>さばく</sup>っ走<sup>けつ</sup>り、砂<sup>さばく</sup>漠<sup>けつ</sup>でガ<sup>さばく</sup>ス<sup>けつ</sup>欠<sup>けつ</sup>にな<sup>けつ</sup>っちま<sup>けつ</sup>った。
- 0331: 切<sup>きつぷ</sup>符<sup>にゅうしゅ</sup>を入<sup>にゅうしゅ</sup>手<sup>しゅ</sup>し、デ<sup>にゅうしゅ</sup>ョ<sup>しゅ</sup>レ<sup>しゅ</sup>ト<sup>しゅ</sup>バ<sup>しゅ</sup>グ<sup>しゅ</sup>にゴ<sup>しゅ</sup>ー<sup>しゅ</sup>だ<sup>しゅ</sup>ぜ。
- 0332: ウォ<sup>なら</sup>ラ<sup>ごと</sup>ウ<sup>しゃげき</sup>ィ<sup>ぼじゅつ</sup>は、習<sup>つづ</sup>い事<sup>つづ</sup>で射<sup>つづ</sup>撃<sup>つづ</sup>と馬<sup>つづ</sup>術<sup>つづ</sup>を続<sup>つづ</sup>けて<sup>つづ</sup>い<sup>つづ</sup>る。
- 0333: 何<sup>な</sup>故<sup>ぜ</sup>、チ<sup>ひるめし</sup>ェ<sup>ひるめし</sup>ル<sup>ひるめし</sup>ニ<sup>ひるめし</sup>シ<sup>ひるめし</sup>ェ<sup>ひるめし</sup>フ<sup>ひるめし</sup>は昼<sup>ひるめし</sup>飯<sup>ひるめし</sup>がケ<sup>ひるめし</sup>バ<sup>ひるめし</sup>ブ<sup>ひるめし</sup>ば<sup>ひるめし</sup>か<sup>ひるめし</sup>り<sup>ひるめし</sup>な<sup>ひるめし</sup>の<sup>ひるめし</sup>？
- 0334: こ<sup>さかいめ</sup>こ<sup>さかいめ</sup>が、プ<sup>さかいめ</sup>ロ<sup>さかいめ</sup>フ<sup>さかいめ</sup>ェ<sup>さかいめ</sup>ッ<sup>さかいめ</sup>シ<sup>さかいめ</sup>ョ<sup>さかいめ</sup>ナ<sup>さかいめ</sup>ル<sup>さかいめ</sup>とア<sup>さかいめ</sup>マ<sup>さかいめ</sup>チ<sup>さかいめ</sup>ュ<sup>さかいめ</sup>ア<sup>さかいめ</sup>と<sup>さかいめ</sup>の<sup>さかいめ</sup>境<sup>さかいめ</sup>目<sup>さかいめ</sup>です<sup>さかいめ</sup>ね。
- 0335: 常<sup>つね</sup>に悩<sup>なや</sup>み<sup>つ</sup>が尽<sup>つ</sup>きぬシ<sup>ぼんのうぼだい</sup>ド<sup>ぼんのうぼだい</sup>ウ<sup>ぼんのうぼだい</sup>ウ<sup>ぼんのうぼだい</sup>ォ<sup>ぼんのうぼだい</sup>を、ド<sup>はげ</sup>ウ<sup>はげ</sup>エ<sup>はげ</sup>ニ<sup>はげ</sup>ャ<sup>はげ</sup>ス<sup>はげ</sup>が煩<sup>はげ</sup>悩<sup>はげ</sup>菩<sup>はげ</sup>提<sup>はげ</sup>だ<sup>はげ</sup>と励<sup>はげ</sup>まし<sup>はげ</sup>た。
- 0336: パ<sup>はりがね</sup>ス<sup>はりがね</sup>ク<sup>はりがね</sup>ィ<sup>はりがね</sup>ー<sup>はりがね</sup>ニ<sup>はりがね</sup>は、針<sup>はりがね</sup>金<sup>はりがね</sup>をグ<sup>はりがね</sup>ニ<sup>はりがね</sup>ャ<sup>はりがね</sup>グ<sup>はりがね</sup>ニ<sup>はりがね</sup>ャ<sup>はりがね</sup>曲<sup>はりがね</sup>げ<sup>はりがね</sup>る。
- 0337: ヒ<sup>むぞうさ</sup>ュ<sup>むぞうさ</sup>ー<sup>むぞうさ</sup>ム<sup>むぞうさ</sup>が無<sup>むぞうさ</sup>造<sup>むぞうさ</sup>作<sup>むぞうさ</sup>に引<sup>むぞうさ</sup>き千<sup>ひ</sup>切<sup>ちぎ</sup>った紐<sup>ひも</sup>は、め<sup>じょうぶ</sup>っ<sup>じょうぶ</sup>ち<sup>じょうぶ</sup>ゃ<sup>じょうぶ</sup>丈<sup>じょうぶ</sup>夫<sup>じょうぶ</sup>な<sup>じょうぶ</sup>は<sup>じょうぶ</sup>ず<sup>じょうぶ</sup>だ<sup>じょうぶ</sup>け<sup>じょうぶ</sup>ど。
- 0338: 夜<sup>よどお</sup>通<sup>よどお</sup>し<sup>よどお</sup>でド<sup>しちょう</sup>ラ<sup>しちょう</sup>マ<sup>しちょう</sup>を視<sup>しちょう</sup>聴<sup>しちょう</sup>し、気<sup>き</sup>が付<sup>き</sup>け<sup>き</sup>ば空<sup>つ</sup>が明<sup>そら</sup>ら<sup>あか</sup>む。
- 0339: 弥<sup>やひこ</sup>彦<sup>みほ</sup>と美<sup>びなんびじょ</sup>穂<sup>びなんびじょ</sup>は美<sup>ねこ</sup>男<sup>しゃくし</sup>美<sup>しゃくし</sup>女<sup>しゃくし</sup>で、猫<sup>ねこ</sup>も杓<sup>しゃくし</sup>子<sup>しゃくし</sup>もや<sup>しゃくし</sup>っ<sup>しゃくし</sup>か<sup>しゃくし</sup>む<sup>しゃくし</sup>カ<sup>しゃくし</sup>ッ<sup>しゃくし</sup>プ<sup>しゃくし</sup>ル<sup>しゃくし</sup>だ。
- 0340: コ<sup>コン</sup>ン<sup>コン</sup>ピ<sup>コン</sup>エ<sup>コン</sup>ー<sup>コン</sup>ニ<sup>コン</sup>ュ<sup>コン</sup>でデ<sup>コン</sup>ザ<sup>コン</sup>ー<sup>コン</sup>ト<sup>コン</sup>なら、ク<sup>コン</sup>レ<sup>コン</sup>ー<sup>コン</sup>ム<sup>コン</sup>ブ<sup>コン</sup>リ<sup>コン</sup>ュ<sup>コン</sup>レ<sup>コン</sup>だ<sup>コン</sup>な。
- 0341: カ<sup>いかく</sup>ラ<sup>いかく</sup>ス<sup>いかく</sup>がク<sup>ひる</sup>ァ<sup>ひる</sup>ー<sup>ひる</sup>ク<sup>ひる</sup>ァ<sup>ひる</sup>ー<sup>ひる</sup>と威<sup>ひる</sup>嚇<sup>ひる</sup>し<sup>ひる</sup>た<sup>ひる</sup>が、ヴ<sup>ぶくろ</sup>ィ<sup>ぶくろ</sup>シ<sup>ぶくろ</sup>ニ<sup>ぶくろ</sup>ョ<sup>ぶくろ</sup>ー<sup>ぶくろ</sup>ワ<sup>ぶくろ</sup>は怯<sup>かたづ</sup>ま<sup>かたづ</sup>ず<sup>かたづ</sup>ゴ<sup>かたづ</sup>ミ<sup>かたづ</sup>袋<sup>かたづ</sup>を片<sup>かたづ</sup>付<sup>かたづ</sup>け<sup>かたづ</sup>る。
- 0342: ハ<sup>そげき</sup>ビ<sup>そげき</sup>ャ<sup>そげき</sup>リ<sup>そげき</sup>マ<sup>そげき</sup>ナ<sup>そげき</sup>は狙<sup>おび</sup>撃<sup>おび</sup>にビ<sup>しよくじ</sup>ク<sup>しよくじ</sup>ビ<sup>しよくじ</sup>ク<sup>しよくじ</sup>と怯<sup>どくみ</sup>え<sup>どくみ</sup>、食<sup>どくみ</sup>事<sup>どくみ</sup>もギ<sup>どくみ</sup>ャ<sup>どくみ</sup>ッ<sup>どくみ</sup>ド<sup>どくみ</sup>に毒<sup>どくみ</sup>見<sup>どくみ</sup>さ<sup>どくみ</sup>せ<sup>どくみ</sup>る。
- 0343: 果<sup>かじつ</sup>実<sup>かじつ</sup>をギ<sup>しぼ</sup>ュ<sup>しぼ</sup>ギ<sup>しぼ</sup>ュ<sup>しぼ</sup>っ<sup>しぼ</sup>と絞<sup>しぼ</sup>ったジ<sup>きぶん</sup>ュ<sup>きぶん</sup>ー<sup>きぶん</sup>ス<sup>きぶん</sup>で、気<sup>きぶん</sup>分<sup>きぶん</sup>をリ<sup>きぶん</sup>フ<sup>きぶん</sup>レ<sup>きぶん</sup>ッ<sup>きぶん</sup>シ<sup>きぶん</sup>ュ<sup>きぶん</sup>。
- 0344: デ<sup>かくさ</sup>ィ<sup>かくさ</sup>ジ<sup>じょちょう</sup>タル<sup>じょちょう</sup>デ<sup>ひさく</sup>ィ<sup>ひさく</sup>バ<sup>ひさく</sup>ィ<sup>ひさく</sup>ド<sup>ひさく</sup>が、格<sup>ひさく</sup>差<sup>ひさく</sup>を助<sup>ひさく</sup>長<sup>ひさく</sup>す<sup>ひさく</sup>るこ<sup>ひさく</sup>と<sup>ひさく</sup>へ<sup>ひさく</sup>の<sup>ひさく</sup>秘<sup>ひさく</sup>策<sup>ひさく</sup>が<sup>ひさく</sup>あ<sup>ひさく</sup>る<sup>ひさく</sup>ん<sup>ひさく</sup>で<sup>ひさく</sup>す<sup>ひさく</sup>よ<sup>ひさく</sup>ね、
- ジョ<sup>ジョ</sup>ゼ<sup>ジョ</sup>ッ<sup>ジョ</sup>フ<sup>ジョ</sup>ォ<sup>ジョ</sup>？
- 0345: ヴ<sup>きりつ</sup>ェ<sup>きりつ</sup>ス<sup>きりつ</sup>ピ<sup>おも</sup>ニ<sup>おも</sup>ャ<sup>おも</sup>ー<sup>おも</sup>ニ<sup>おも</sup>は規<sup>じゅう</sup>律<sup>じゅう</sup>を重<sup>とうと</sup>ん<sup>とうと</sup>じ<sup>とうと</sup>る<sup>とうと</sup>が、自<sup>じゅう</sup>由<sup>じゅう</sup>も尊<sup>とうと</sup>ぶ<sup>とうと</sup>。
- 0346: イ<sup>かげき</sup>ヴ<sup>かげき</sup>ギ<sup>どくぜつ</sup>ェ<sup>どくぜつ</sup>ー<sup>どくぜつ</sup>ニ<sup>どくぜつ</sup>ィ<sup>どくぜつ</sup>ェ<sup>どくぜつ</sup>ヴ<sup>どくぜつ</sup>ナ<sup>どくぜつ</sup>の、過<sup>しよせきか</sup>激<sup>しよせきか</sup>な毒<sup>しよせきか</sup>舌<sup>しよせきか</sup>ブ<sup>しよせきか</sup>ロ<sup>しよせきか</sup>グ<sup>しよせきか</sup>が書<sup>ひやくまんぶう</sup>籍<sup>ひやくまんぶう</sup>化<sup>ひやくまんぶう</sup>し、百<sup>ひやくまんぶう</sup>万<sup>ひやくまんぶう</sup>部<sup>ひやくまんぶう</sup>売<sup>ひやくまんぶう</sup>れた<sup>ひやくまんぶう</sup>そ<sup>ひやくまんぶう</sup>う<sup>ひやくまんぶう</sup>な。
- 0347: グ<sup>く</sup>ウ<sup>く</sup>ラ<sup>く</sup>ー<sup>く</sup>ト<sup>く</sup>は、デ<sup>く</sup>ィ<sup>く</sup>ー<sup>く</sup>プ<sup>く</sup>ニ<sup>く</sup>ュ<sup>く</sup>ー<sup>く</sup>ラ<sup>く</sup>ル<sup>く</sup>ネ<sup>く</sup>ッ<sup>く</sup>ト<sup>く</sup>ワ<sup>く</sup>ー<sup>く</sup>ク<sup>く</sup>をロ<sup>く</sup>ボ<sup>く</sup>ッ<sup>く</sup>ト<sup>く</sup>に組<sup>く</sup>み<sup>く</sup>込<sup>く</sup>む。
- 0348: チ<sup>ねあ</sup>ー<sup>ねあ</sup>ズ<sup>ねあ</sup>の値<sup>しよくひ</sup>上<sup>しよくひ</sup>げ<sup>しよくひ</sup>が食<sup>お</sup>費<sup>あ</sup>を<sup>あ</sup>押<sup>あ</sup>し<sup>あ</sup>上<sup>あ</sup>げ、ド<sup>せつやく</sup>ラ<sup>せつやく</sup>ピ<sup>せつやく</sup>ェ<sup>せつやく</sup>ー<sup>せつやく</sup>ル<sup>せつやく</sup>は節<sup>よぎ</sup>約<sup>よぎ</sup>を余<sup>よぎ</sup>儀<sup>よぎ</sup>なく<sup>よぎ</sup>さ<sup>よぎ</sup>れた。

- 0349: かわ は お べっしつ ほうち  
皮を剥ぎ終わったら、別室でバラバラに放置しておいて。
- 0350: とつじょきぜつ よ ひと きゅうじょ  
ビエロヴァルで突如気絶したら、善い人が救助してくれました。
- 0351: ゆび ぎし み ば ひとむかしまえ よ  
指の義肢、すなわちエピテーゼの見栄えは、一昔前よりかなり良くなった。
- 0352: しょっかん ちが  
パスタでも、ファルファツレとフィットチーネでは、食感がまるで違う。
- 0353: じゅばく と たよ  
呪縛を解くなら、リエルヴァーデのシェミャーカを、頼りなされ。
- 0354: ながちょうば あ  
ゴルフやフィールドアーチェリーは長丁場なので、飽きっぽいウェグナーはちょっとな。
- 0355: かべ ほう  
壁にボールを放ると、グローブをつけたポルピュリオスがキャッチした。
- 0356: びょうじゃく みやげ や はし こうにゆう  
病弱なドゥシェミンは、土産の八つ橋を購入するだけでへろへろだ。
- 0357: スノクアルミーで、ミューニュートリノのレクチャーがあるのでしょ？
- 0358: ぐさ かぐわ たたみ わ さ ふかけつ じふ  
い草の香しさが、畳の侘び寂びに不可欠だと自負しております。
- 0359: せんりゃく はんようてき せ たいしよ  
ああ、ドラヴィーニュの戦略なら汎用的で、あらゆる攻めに対処できますね。
- 0360: はなぞの すみか  
かつて、ファドゥーツの花園に、フェアリーの住処がありました。
- 0361: せいいく うね もち  
ジャガイモの生育に、畝を用いる。
- 0362: み ぼし だいひょうさく あじ  
三ツ星レストランシェフの代表作である、フォアグラソテーをじっくり味わう。
- 0363: びみょう み しっかく  
ズビグニェフのワールドレコードは、レギュレーションを微妙に満たさず、失格だろう。
- 0364: うし ひつにゆうりょう らくのう しゅうえき ちょっけつ  
牛の泌乳量は、酪農の収益に直結する。
- 0365: ペプシコーラとレモネードにコニャック、カクテルのバランスがシビア。
- 0366: なぐ  
ズバリ、ペツオッタを殴ったのは、シャクェリアだ。
- 0367: かなめ  
えっと、スタックのアルゴリズムでは、プッシュとポップが要です。
- 0368: ゆ みず ひた ず てがる  
茹でたモヤシを水に浸し、ゆずポン酢で手軽なおかずだ。
- 0369: きじゅつ へきえき  
プリピャチとチェルノブイリをセットで記述するコラムに、辟易とする。

0370: ゴルツェーニョは、皆<sup>みなさま</sup>様<sup>ねつれつかんげい</sup>を熱烈歓迎します。

0371: 死神<sup>しにがみ</sup>の巣窟<sup>そうくつ</sup>に、グイドッティが足<sup>あし</sup>を踏み入れ、六<sup>ろっ</sup>か月<sup>げつご</sup>後に白骨<sup>はっこつ</sup>で見つ<sup>み</sup>かった。

0372: 湯桶<sup>ゆとう</sup>読<sup>よ</sup>みの言葉<sup>ことば</sup>なら、雨具<sup>あまぐ</sup>や湯茶<sup>ゆちゃ</sup>が、パッと浮<sup>う</sup>かびました。

0373: デャコヴォに住<sup>す</sup>む家族<sup>かぞく</sup>に、ポルペッティーネを振舞<sup>ふるま</sup>ったら、喜<sup>よろこ</sup>ばれた。

0374: ペーテヤのツイートがバズり、二<sup>ふつか</sup>日でフォロワーが百<sup>ひゃく</sup>も増<sup>ふ</sup>えた。

0375: さて、恭<sup>きょういち</sup>一<sup>いち</sup>がマネジメントしたオペラが、ヴァルドウッジャでお披露<sup>ひろめ</sup>目だ。

0376: 事後<sup>じご</sup>の調査<sup>ちようさ</sup>でドーピングがバレて、ベニョヴスキーのメダルが剥奪<sup>はくだつ</sup>された。

0377: あーあ、ドウグォンのセキュリティが突破<sup>とっぱ</sup>されると、事前<sup>じぜん</sup>にメールしたのに。

0378: グェラツツィは、ギザギザの鑪<sup>やすり</sup>で木目<sup>もくめ</sup>を磨<sup>みが</sup>き、昼休<sup>ひるやす</sup>みにキャンディをペロペロ舐<sup>な</sup>める。

0379: フォルギェーリとブトラゲーニョのコンビは、デビュー以来不敗<sup>いらいふはい</sup>だと聞<sup>き</sup>いたが？

0380: ずらずらとジュエルを並<sup>なら</sup>べ、ミョーチョーマイインに捧<sup>ささ</sup>げたが、拒否<sup>きよひ</sup>された。

0381: 武勲<sup>ぶくん</sup>をたてたデュウェイだが、ビューフォートで事故<sup>じこ</sup>に巻<sup>ま</sup>き込まれ、死亡<sup>しぼう</sup>した。

0382: 命<sup>いのち</sup>を懸<sup>か</sup>けた勝負<sup>しょうぶ</sup>など馬鹿<sup>ばか</sup>げているが、デョークはギャンブルで賭<sup>か</sup>けてしまう。

0383: ゴビヤートがロープウェイで暴<sup>あば</sup>れ、乗<sup>じょうきやく</sup>客<sup>かく</sup>がパニックになった。

0384: ヴラーンギェリは、ミュージカルと歌舞伎<sup>かぶき</sup>が趣味<sup>しゆみ</sup>だ。

0385: ビェリツァとスィルギェーイ、滅多<sup>めった</sup>にお目<sup>め</sup>にかかれぬ幻<sup>まぼろし</sup>の決戦<sup>けっせん</sup>だ。

0386: コンメツツァドゥーラの芝生<sup>しばふ</sup>で、グローシェフがおもちゃのフリスビー<sup>な</sup>を投<sup>な</sup>げる。

0387: グェレーロは臆病<sup>おくびょう</sup>風<sup>かぜ</sup>に吹<sup>ふ</sup>かれ、ぐずぐずとぬるま湯<sup>ゆ</sup>を望<sup>のぞ</sup>む。

0388: ディデューは、新潟<sup>にいがた</sup>で開<sup>ひら</sup>かれるパーティーに、ズヴェーリエフを誘<sup>さそ</sup>った。

0389: 座席<sup>ざせき</sup>は窓側<sup>まどがわ</sup>で、持ち込<sup>も</sup>むのは小型<sup>こ</sup>のキャリーバグ<sup>こがた</sup>だけです。

0390: 神奈川<sup>かながわ</sup>のビーチで日焼<sup>ひや</sup>けし、肌<sup>はだ</sup>が痒<sup>かゆ</sup>くヒリヒリする。

0391: 漢字の叱かんじ しつは、叱しかると酷似こくじ まぎして紛まぎらわしい。

0392: クァイティオを、ジュネーヴで馴染なじむ味付けあじつにアレンジし、連日れんじつ行列ぎょうれつで荒稼あらかせぎだ。

0393: 隠喩いんゆで侮辱ぶじよくされたシェーンメッツァーが、皮肉ひにくでやり返かえした。

0394: ヴィニユーの地層ちそうで出土しゅつどした宝玉ほうぎよくが、ゴールドラッシュの幕開まくあけだ。

0395: 愛娘まなむすめを守るため、リビングに柵さくを設せ置ちした。

0396: トプギェルは、逆境ぎゃつぎょうを覆くつがえし、八八歩はちはちふからの五手詰ごてづめをかけた。

0397: ニェムツォヴァーは、ウェットティッシュで床ゆかを拭ふく。

0398: ベデヤイはシュートフォームを録画ろくがし、バロツツイが助言じょげんした。

0399: ベッドフォードがユーフォーを目撃もくげきしたエリアに、不気味ぶきみな焼やけ跡あとがある。

0400: シュヴィルツォクは、ヴィネガーとレバーきらが嫌きらいだ。